

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「良い」超幅拡大。
—— 製造業は「悪い」超幅が解消。非製造業は「良い」超幅が縮小した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	電気機械、窯業・土石製品、繊維、輸送用機械	半導体等の需要増加
	悪化	鉄鋼、食料品、はん用・生産用・業務用機械	価格上昇や天候不順による需要減少
非製造業	改善	対個人サービス、建設	ホテル関連需要の増加 価格転嫁の進捗
	悪化	情報通信、不動産、小売	価格上昇による国内の需要減少 コストアップによる収益悪化

- **先行き**については、「良い」超幅が縮小する見通しである。
—— 製造業は今回調査並みとなる見通し。非製造業は「良い」超幅が縮小する見通し。

(事業計画)

- 2024年度は、**売上高**が前年を上回る計画である。一方、**経常利益**は前年を下回る計画である。
—— 経常利益は、製造業では、コストアップなどから減益計画となっている。一方、非製造業では、価格転嫁の進捗などから増益計画となっている。
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業はコストアップや為替変動から下方修正となった。一方、非製造業は売上増加などから上方修正となった。

- 2024年度の設備投資は、前年を上回る計画である。
 - 製造業は事業拡大や能増投資、非製造業は営業拠点の拡大や能増投資などから、前年を上回る計画である。
 - 前回調査対比で見ると、工期の遅れや先送りなどから製造業、非製造業ともに下方修正となった。

(その他の判断項目)

- 販売価格判断D.I.、仕入価格判断D.I.は、「上昇」超幅が縮小した。
- 雇用人員判断D.I.は、前回調査並みの「不足」超幅となった。
- 資金繰り判断D.I.は、「楽である」超幅が拡大した。貸出態度判断D.I.は、「緩い」超幅が縮小した。借入金利水準判断D.I.は、「上昇」超幅が拡大した。

以 上